

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1072600321		
法人名	株式会社ヴィラージュ		
事業所名	グループホーム高山の家		
所在地	群馬県吾妻郡高山村中山6859-186		
自己評価作成日	平成23年9月18日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

大自然に囲まれた環境を活かし、利用者様に安全・安心な食事を提供するように努めています。利用者様と共に作る食事には、ホームのすぐ脇で群生している山菜や、利用者様と職員が共同作業で育てた野菜を取り入れております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7 群馬県公社総合ビル5階		
訪問調査日	平成23年10月5日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設は季節の移り変わりを実感できる自然環境の中にある。近隣に住宅が少なく係りは築きにくいですが、職員が地域からの情報を集め、地域に出て行き交流を深め、施設を理解してもらえるように努力している。利用者の自立支援に向けたケアに力を入れ排泄・食事などできることは自分でしてもらい見守りと一部支援でその人の状態に合わせたケアを行っている。そして玄関の施錠はせず、見守りを重視している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の方々との触れ合いを念頭に理念を作成し、朝礼時に全員で唱和しています。また、地域の方に慰問に来ていただくなどのイベントを行っています。	地域との関わりを盛り込んだ理念が作成されており、朝礼時に全員で理念を唱和し確認して実践に繋いでいる。地元から職員を採用したり、地域のイベントに積極的に参加して理念の実現に向けて努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の方々の踊りや演奏会の慰問など、来所していただき実施しています。また、小学校の運動会見学や文化祭への出品などを通して地域の方々と交流しています。	地元の民謡会の踊りや唄の慰問、小学校の行事や敬老会への参加、地元居住職員の仲間による和太鼓の演奏等、交流の機会を大切にして地域とのつながりを持っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福祉施設利用の相談や紹介を出来る範囲で行っています。また、介護学生の実習及びボランティアの場を提供しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の会議にて事業報告をし、意見を頂戴しています。また、行事にも参加していただき、直後の会議の席で感想・意見を聞いております。	行政が不参加の回があったが、2ヶ月に1回開催している。全家族に通知し遠方の方が多いため特定の家族の参加となっている。会議内容の報告はしていない。ホームの行事に合わせて開催し多くの方の参加をお願いしている。出席者からは職員異動に付いてや買い物希望等の話があり改善に繋いでいる。	定期的開催されているので、行政の毎回の参加を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険更新申請書の提出や運営推進会議の案内状などは、郵送せずに直接顔を合わせ手渡しを行うようにしています。その際に相談などをし協力関係を築くように心掛けています。	更新申請の代行や運営推進会議の案内で行政担当者を訪問した際に、不明な点を相談したりホームの状況を伝えて連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が「禁止の対象となる具体的な行為」を把握するように資料を配布するなどの手段を講じております。同時に身体拘束を行わないケアの実践に取り組んでいます。	職員は身体拘束に付いての内容を正しく理解して、職員の見守りの徹底等により身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。2階からも自由に階下に降りられ、玄関にも鍵をかけず利用者の自由な暮らしの支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止研修に参加しています。また、ホーム内でも勉強会を開き虐待防止への理解を深めると共に、実際に虐待が行われないよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今現在、日常生活自立支援事業を活用されている方が入居されております。連絡を定期的に取り合い、ご本人様の様子や要望などを話し合っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書及び重要事項説明書を用いてサービス、事業の説明をさせて頂いております。また、退居につながる事項も同時に説明を行い、納得を得られた上で契約を行わせていただいております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情申立の説明をさせて頂いております。更に施設内に相談窓口を掲示し、いつでも相談に応じられるよう努めております。	家族面会時には声かけをして家族の思いを聞くようにし、年に1回アンケートをお願いしている。食事の量に付いての要望が出され改善に反映させた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	主に月1回開催の処遇会議にて業務内容等の話し合いを行っております。また、それ以外でも職員から提示された議題があれば随時職員間で相談を行い、より良い事業所にするため努めております。	月に1回開催している処遇会議で職員の意見や要望を聞く機会を作っている。職員から業務改善に付いての提案があり話し合って改善に繋いでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況や努力・実績を踏まえた上で人事考課表を作成し、やりがいや向上心を持って働けるよう環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	主に会社主催の研修に参加してもらい知識と技能の向上を図っております。また、地域密着型サービス連絡協議会の事例発表会に参加する事により、深く考える機会を体験してもらう事を考えております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加盟し、同協議会主催の研修にて交流、ネットワーク作りに繋げております。また、同協議会が行っている相互訪問については参加の意思を伝えております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回相談時等に、不安に思っている事、嗜好品、要望等を本人様及び家族から伺うようにしています。また、入居前に全ての職員に事前情報として提供し、円滑な生活を送れるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回相談時や見学に来られた際に、困っている事、不安に思っている事、要望等を伺うようにしております。また、それらを関係作りに活用できるように記録に残しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当ホームの体制と、関連事業所の事業内容を説明し、希望や状況に沿ったより良いサービスが受けられるように対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事を手伝って頂いている中で、共に生活を送っているという意識を持ってもらえるような声掛け、働きかけに努めています。また、十分なコミュニケーションを図り、信頼関係を築けるよう努力しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の心情や事情をくみ取り、家族と常に意見交換ができるよう便りやアンケートを送付し、本人様の今を家族と共に支えあうよう心掛けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎年、年末に利用者様に年賀状を作成して頂き、大切な友人やご家族に送っています。	親族や友人の面会、親族と一緒にの外出、自宅や旅館でのお泊まり等が行われている。親族や友人への年賀状作成のお手伝いをし、これまでの関係が途切れない支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同志の関係が円滑に進むよう、食堂の座席や居室配置に配慮しています。また、孤立しないよう声かけを心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院から継続してのサービス利用停止の際などに、退院後の入居先の相談等受けています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の想いを把握し、できるだけ希望に沿えるように努めています。また、家族からの意向にも応えられるように努めています。	日常生活でのコミュニケーションから思いや意向をくみ取っている。意思表示の上手くできない方の場合は家族や関係者から情報を聞いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時に本人及び家族から生活歴や生活環境等を伺わせて頂くように努めています。また、ケアマネや他の介護・入院施設からの情報提供、主治医からの情報提供書などを参照し本人様の状態把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェック、食事水分摂取量の記録等により体調の把握に努めています。また、日々の観察や職員間の情報交換などにより、一日の過ごし方、精神状態の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向に沿えるよう、サービス担当者会議やケアカンファレンスで話し合いを行い、計画立案に努めています。また、会議に参加が困難な家族には電話にて意向を確認しています。	本人や家族の意向を踏まえ、サービス担当者会議やカンファレンスで話し合い計画を立てている。月に1回モニタリングを行い、23年6月からは3ヶ月ごとと状況に変化が見られた時の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個人記録、心身状況等を記入する経過記録簿を中心に情報の共有を図っています。また、ケアカンファレンス記録を活用し、介護計画の見直しに活用しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期受診をはじめ、突発的な受診にも対応させていただいております。また、定員未満の時に相談を頂戴した短期利用にも対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の小学校の運動会見学、隣接専門学校の文化祭への見学や実習生の受入れ、地域ボランティアの慰問、村の文化祭への作品出品等々を活用し入居者様が楽しく生活できるように支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診及び診療科目別の受診に対応させて頂いております。また、ご家族様の希望にて提携以外の病院受診対応もさせて頂いております。	本人・家族の希望するかかりつけ医となっている。殆どの利用者が協力医をかかりつけ医としているがそれ以外の方についても、受診は事業所が対応している。結果は電話または面会時に報告し情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接するデイサービスの看護師に相談・連携を図り、必要に応じて指示や処置を受けられるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院した際、経緯をすぐに伝えるように連絡表を作成し、入院先医療機関に情報を送っています。また、入院中の状況がわかるよう面会に赴き、その都度状態を把握してきます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化におけるホームの方針を文書を渡すと共に説明しております。また、重度化時における病院での対応を家族に確認し、入院時に病院に情報として渡しています。	重度化の場合の事業所としての方針は文書化しており、契約時に家族に説明し確認をとっている。重度になった時には家族の意向を確認するが、基本的には提携病院に入院となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署に依頼し、緊急時における救命救急講座を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、災害時に速やかに動けるように努めています。	23年3月の消防署立会いによる昼間を想定した避難訓練・消火訓練と10月には自主訓練を実施している。備蓄として缶詰・麺類、ポータブルトイレの用意がある。	災害時には避難誘導が速やかに行なえるように、消防署協力による定期的な訓練とは別に事業所独自で自主訓練を実施することを検討して欲しい。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様は人生の先輩であることを十分に認識し、対応させて頂いています。また、入浴や排泄など尊厳やプライバシーに深く関わる介助ではより注意し対応させて頂いています。	利用者は人生の先輩であることを認識し、特にトイレ誘導時の言葉かけ、入浴や排泄時の介助等に付いては特に配慮している。個人情報の守秘義務に付いても充分理解し徹底させている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	決定ありきの声掛けは行わず、利用者様の意思を確認できるような声掛けに努めています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日頃の生活などをカンファレンスで振り返り、本人主体の生活が送れているか検討し、個々の体調や気持ちを考慮し柔軟に対応するよう努めています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の生活の中から好きな色や小物などを把握し、髪型や服装などにつなげ、その人がしてきた御洒落が出来るよう支援を行っています。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材庫からの食材の運搬、皮むき、蔓取り等の簡単な作業を手伝って頂いたり、下膳から食器洗い、食器拭きの片付けにも協力をしていただいています。	皮むきや莢とり等の食材の準備、調理、盛り付け、下膳、食器洗いや食器拭き等を時には職員が利用者から教わりながら一緒に行っている。利用者の希望を取り入れ職員と一緒に食事を摂っている。お弁当を持ってピクニックに出かけたり、イベントには特別メニューで食事を楽しめる工夫をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	コーヒーを好んで飲まれる方がいる中で、カルシウムが取れるように牛乳を加えるなどの工夫をしています。また、栄養バランスに配慮し一日の献立の中での品目チェックも行っています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様の状況に合わせ、毎食後口腔ケアの誘導、見守り、介助を行っています。また、夕食後は義歯をポリデント消毒し衛生を保つように心掛けています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握すると共に、定時及び訴え時のトイレ誘導を行っています。	一人ひとりの排泄パターンや身体状況等を考慮しながら、トイレ誘導によりトイレでの排泄や布パンツへの移行に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のチェック表にて排便状況の把握に努めています。日常においては、食事内容の工夫、十分な水分補給、運動への参加を促し自然排便になるよう努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の体調を大前提に、できる範囲の中で希望に添えるように努めています。	利用者の体調や希望により、毎日、昼間(午前・午後)の入浴対応を行っている。少なくとも週に2～3日の入浴を心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の状態等に留意しながら、個々の意向に沿うよう対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期受診にて薬の変更があった際は、記録や処方箋を確認し薬の理解をしています。また、利用者様には薬の目的を伝え安心して服薬できるように支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者様の希望により、台所での食器洗いやテーブル拭き、食器拭き、調理の下ごしらえ、洗濯物たたみ等の家事を楽しみながら、無理の無い範囲で行って頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩をしたいとの希望があれば可能な限り応えるようにしています。また、イベントや外出行事を企画し、戸外へ出られるように支援しています。	近隣の散歩、お花見等のドライブ、施設広場でお茶を飲んだりアイスクリームを食べたり、年に1度「さんまパーティー」を開く等で屋外に出る機会を作っている。協力病院受診に車で30分位かかるのでドライブ感覚で出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な方は、買い物介助時に自分で選んでもらって支払いをしていただいています。また、自己管理が困難な方には仮想通貨を作成し、納涼祭などのイベントで買い物を楽しんで頂いております。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本的に電話や手紙について制限は無く、利用者様の希望に添えるように支援させて頂いております。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた作品と一緒に作成して飾ったり、季節の花を置くなどをして季節を感じて頂くと共に、心地良い空間作りに努めています。また、室内の温度を調整し、過ごし易い環境作りに努めています。		玄関入り口に植木や季節の花が植えてあり、心和む雰囲気となっている。外の景色も良く見えるホール内は明るく居心地が良い。家族と話ができるスペースがある。テーブルはその都度組み合わせられるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の席は気の合った方々で過ごせるような配置に気を配っています。また、食堂以外に配置したテーブルと椅子や和室を自由に使って頂いております。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様が以前の生活で使用していた家具を用意していただいたり、ベットが苦手な方には畳に布団を敷いて対応させて頂いております。		仏壇やたんす・テレビ・絵・家族の写真が飾られている。トイレが付いている。フローリングと畳の部屋がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の理解力、身体能力を把握し、安全かつ自立した生活を送れるよう居室内の家具配置などに配慮しています。また、同様の理由で食堂の座席にも気を配っています。			